

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-540	15-061	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Prevalence of cirrhosis in hepatitis C patients in the Chronic Hepatitis Cohort Study (CHeCS): a retrospective and prospective observational study. C 型肝炎患者における肝硬変の有病率：慢性肝炎コホート研究(CHeCS)の後ろ向きおよび前向き観察研究		
執筆者		
Gordon SC, Lamerato LE, Rupp LB, Holmberg SD, Moorman AC, Spradling PR, Teshale E, Xu F, Boscarino JA, Vijayadeva V, Schmidt MA, Oja-Tebbe N, Lu M.		
掲載誌		
Am J Gastroenterol. 2015 Aug;110(8):1169-77; quiz 1178. doi: 10.1038/ajg.2015.203.		
キーワード		PMID
C 型肝炎、肝硬変、ICD-9、肝生検、FIB-4 スコア		26215529
要 旨		
<p>目的： 米国の成人の C 型肝炎患者を対象として、種々の同定方法を用いて肝硬変の有病率を推定した。</p> <p>方法： 対象者は、2006-2010 年に医療サービスを受けた慢性肝炎コホート研究(CHeCS)の登録者とした。肝硬変は、肝生検、肝硬変の ICD-9-CM コードもしくは代償不全の ICD-9、CPT コード、肝線維症マーカーである FIB-4 スコア≥ 5.88 を用いて同定した。多変量ロジスティックモデルを用いて、人口統計学もしくは臨床的特徴と肝硬変の関連を検討した。</p> <p>結果： 9,783 人の患者のうち、いずれかの方法を用いて肝硬変と同定できたものは合計 2,788 人 (28.5%) だった。肝生検で肝硬変を同定した 661 人のうち、ICD-9-CM で肝硬変のコードが付与されていたのはたった 356 人だった。高齢、男性、アジア人、ヒスパニック、HCV 遺伝子 3 型、HIV 混合感染、糖尿病、抗ウイルス治療、アルコール中毒が、肝硬変発症の高いオッズ比と独立して関連していた。一方、民間保険加入、黒人、HCV 遺伝子 2 型が肝硬変発症の低いオッズ比と関連していた。</p> <p>結論： 肝生検で肝硬変と同定した患者の多くで ICD-9 の肝硬変のコードは付与されておらず、コホート研究において ICD-9 のコードを用いた肝硬変同定は信頼できないことがわかった。また様々な方法で肝硬変の同定を行ったところ、肝生検のみで同定した 4 倍の肝硬変患者を同定した。したがって、C 型肝炎患者の肝硬変は過小診断されている可能性が示唆された。</p>		